

(4) シラバス

<共通事項>

様式第2号(教育課程及び教員組織)の「授業科目」欄に記載される全ての科目について、シラバスを作成し、提出すること。

※ 施行規則に定める科目区分の「教育実習」、「養護教育実習」、「栄養教育実習」又は「心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習」に該当する授業科目のシラバスは、様式第5号「教育実習実施計画」があるため、作成する必要はない。

1. 必ずしもこの様式どおりでなくても良い(「教職実践演習」を除く)が、様式に含まれる事項については、必ずシラバスに含めて作成すること。
2. 英語等の外国語で授業を実施する科目について、当該外国語によりシラバスを記載して差し支えないが、必ず和訳も併せて付すこと。
3. 共通開設科目については、1枚の作成(提出)で構わない。
4. 「担当形態」欄は以下の別を記載すること。

担当形態	・ 1人の教員が全回担当する場合→「単独」
	・ 1回の授業を2人以上の教員と一緒に担当する場合→ 「複数」
	・ 各回の担当教員が異なる場合 → 「オムニバス」
	・ クラス分けて担当する授業科目である場合 → 「クラス分け」

※ 専修免許状の課程については、開設する科目に応じて「教科に関する科目」又は「教職に関する科目」の様式のいずれかの様式を用いて作成すること。その場合に、「施行規則に定める科目区分」欄及び「各科目に含めることが必要な事項」欄については、斜線を引くこと。また、その他の記載方法については、次頁以降にならうこと。

i) 教科に関する科目、免許法施行規則第66条の6に定める科目

①授業科目名・教員名等は、各種様式（様式第2号、3号及び4号）、学則等と、一致しているか確認すること。	
授業科目名：○○○○	担当教員名：○○ ○○ 担当形態：オムニバス
単位数：○単位	②記載方法は78頁参照。
科目	教科に関する科目（中学校及び高等学校 家庭）
③選択必修科目の場合は「選択科目」と記載すること。	④中・高の科目の場合は、学校種及び教科を記載すること。
施行規則に定める科目区分	・住居学 ・住居学（製図を含む。）
⑤施行規則第2～5条に定められた科目区分を、「」や（ ）、句読点も含めて正確に記載すること。なお、中・高で異なる場合があるため注意すること。（※異なる場合には、列記すること。）	
授業の到達目標及びテーマ	⑥当該授業科目の内容を踏まえ、施行規則に定める科目区分の趣旨に沿った内容を記載すること。
授業の概要	
授業計画 第1回：○○○○ (1) □□□□ 第2回：○○○○ (2) △△△△ 第3回：..... 第15回：○○○○ (担当：▲▲▲▲)	⑦「授業計画」欄について、各回の授業内容を簡潔に記載すること。複数回に渡って同様のテーマを取り扱う場合であっても、数字のみで区別するのではなく、回数ごとに扱うテーマのキーワードを記載し、各回の違いを明確にすること。
定期試験	⑧オムニバス科目の場合、各担当教員を記載すること。
※教科に関する科目のうち「一般的包括的な内容」を含む授業科目について、授業計画から読み取れるかどうかを確認すること。	
テキスト ○○○○、○○○	⑨特にテキスト等を使用しない場合は「特になし」、未定の場合は「未定」と記載し、空欄にしないこと。
参考書・参考資料等 ○○○○、○○○	⑩学生に対して単位を付与する際に、どのような観点で成績を付け、単位を付与するのかについて簡潔に記載すること。
学生に対する評価	

ii) 教職に関する科目、特別支援教育に関する科目

※下記以外の記載方法については、前頁の記載方法にならうこと。

授業科目名：○○○○	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： ○単位	担当教員名： ○○ ○○
			担当形態：オムニバス
科 目	教職に関する科目（教職の意義等に関する科目）		
各科目に含めることが 必要な事項	<ul style="list-style-type: none"> ・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障を含む。） ・進路選択に資する各種の機会の提供等 		
授業の到達目標及びテーマ		
授業の概要		
授業計画	<p>第1回：○○○○（1）□□□□</p> <p>第2回：○○○○（2）△△△△</p> <p>第3回：.....</p> <p>.....</p> <p>第15回：○○○○（担当：▲▲▲▲）</p> <p>定期試験</p>		
テキスト	<p>○○○○、○○○</p>		
参考書・参考資料等	<p>○○○○、○○○</p>		
学生に対する評価		

①「教職に関する科目」又は「特別支援教育に関する科目」の別を記載し、（ ）には施行規則第6条又は第7条の科目を記載すること（次頁参照）。

②施行規則第6条及び第7条に定められた科目区分を、（ ）や句読点も含めて正確に記載すること。（次頁参照）。

※含めることが必要な事項等が授業計画から読み取れるかどうかを確認すること。

なお、「各教科の指導法」の授業科目については、必修の授業科目全体で、学習指導要領又は幼稚園教育要領に掲げる事項に即し、包括的な内容が学習できるようになっているかどうかを確認すること。（※施行規則第6条表備考第2号参照。）

③「各教科の指導法」の授業科目については、学習指導要領又は幼稚園教育要領に掲げる事項に即して学習することが必要となっていることから、テキスト又は参考書として、学習指導要領又は幼稚園教育要領を取り扱っているかどうかを確認すること。

①②「科目」欄及び「各科目に含めることが必要な事項」欄には、施行規則第6条表の科目名、「右項の各科目に含めることが必要な事項」、又は施行規則第7条表の科目名を記載すること。
(例)

前頁①の記載	同①の()記載	同②の記載
教職に関する科目	(教職の意義等に関する科目)	<ul style="list-style-type: none"> ・教職の意義及び教員の役割 ・教員の職務内容(研修、服務及び身分保障等を含む。) ・進路選択に資する各種の機会の提供等
	(教育の基礎理論に関する科目)	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程(障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。) ・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項
	(教育課程及び指導法に関する科目)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・
特別支援教育に関する科目	(特別支援教育の基礎理論に関する科目)※	/
	(特別支援教育領域に関する科目)	<ul style="list-style-type: none"> ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・

※ 特別支援教育に関する科目(特別支援教育の基礎理論に関する科目)の前頁②については、斜線を引くこと。
 ※ 同規則第6条表第2欄～第4欄において「…(〇〇を含む。)」のように、()で記載されているものもそのまま正確に記載すること。

iii) 教職実践演習

①卒業年次の後期（4年制大学であれば4年次後期など）を記載すること。それ以外の場合は、理由書（様式任意）を添付すること。

②「教科に関する科目」を担当する教員が当該科目に参画する場合は、当欄では、「教職に関する科目」のみを担当する教員と区別して記載すること。
例) 教科担当教員：○○○
教職担当教員：△△△

授業科目名: 教職実践演習		単位数: 2単位		担当教員名: ○○○	
科目	教職に関する科目(教職実践演習)				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握	○	学校現場の意見聴取	○
受講者数	○○人				
教員の連携・協力体制				
授業の到達目標及びテーマ				
授業の概要				
授業計画	第1回: ○○○○ (1) □□□□ 第2回: ○○○○ (2) △△△△ 第3回: 第15回: ○○○○ (担当: ▲▲▲▲)				
テキスト	○○○○ ○○○○				
参考書・参考資料等	○○○○				
学生に対する評価				

③履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。

④授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。

⑤授業を実施する際の受講(予定)者数を記載すること。複数の教員が担当し、受講者をグループ分けして授業を実施する場合は、その旨を記載し、1グループあたりの人数も記載すること。

⑥授業の実施における、学内の教員や学外の教育委員会との連携の内容を記載すること。（「教科（又は養護・栄養に係る教育）に関する科目」の担当教員との連携・参画の方法について、具体的に記載すること。この場合、「授業概要」、「授業計画」において、どの部分に関わるのかを明記すること。）

※上記以外の記載方法については、その他のシラバスの記載方法にならうこと。